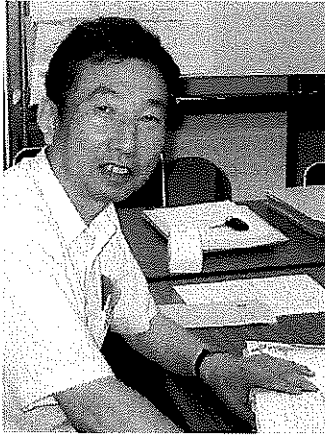


のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
 TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
 E-mail center@f-npo.jp
 URL http://www.f-npo.jp/

自問しますとまだ忸怩たる心境



ふくしまNPO
 ネットワークセンター
 理事
 星野 珙二

ふくしまNPOネットワークセンターも7年目の活動に入ったところです。当初の理事のメンバーも半数以上が交代し、一定の継続性を図りながらも清水理事長を中心に新しい試みを積み重ねております。振り返ってみますと、斉藤実さんが当センターの設立に大いに奮闘されたわけですが、このたび斉藤実理事が体調を崩されて理事から顧問へと一線を退かれました。当センターの活動にもそれなりの歴史の蓄積が感じられる今日このごろです。

さて、私は今期も理事として当センターに関わることになりました。組織の内部にとって、あるいは時には外部にとっても、発足当初からの

理事としての事情通という側面の役割もありますが、私個人としては中間支援組織としてのミッションがどれだけ達成できたのかと自問しますとまだ忸怩たる心境にあり、この面に少しでも貢献していきたいという思いがあります。

先日の第44回NPO研究会で「県内NPOの現状・課題と中間支援組織のあり方」というテーマで当センター独自調査結果を報告させていただきましたが、「県内NPOは資金、人材、マネジメントノウハウなどで苦戦を強いられている現状がみられるにもかかわらず、中間支援組織の認知度は低く、また中間支援組織から必ずしも恩恵が得られていない」という結果になっておりました。私たちの地域の中間支援組織としてのふくしまNPOネットワークセンターについても、このことはよく考えてみる必要があると思います。どうしたら地域のさまざまな現場を抱えるNPOから頼りにされる存在となることができるか、存在感のある地域の中間支援組織たり得るかが私どもの課題となるでしょう。そして欲を言えば、そのようなニーズに応える活動を通して、結果として事業収入にも結びつけることにも知恵を絞る必要があるでしょう。

2007年度ふくしまNPOネットワークセンター総会報告（7月14日）

2007年度総会が7月14日（土）福島学院大学駅前キャンパスで行われました。

今年度は総会に先立ち、県民文化グループ小林孝氏による講演会が開催されました。「NPOと行政—協働による地域づくり—」と題してNPOと行政の関係など興味深いお話しをお聞きすることができました。

総会は、出席者18名、委任状16名で成立が確認され、議長として正会員の佐藤英雄氏が選任されました。2006年度事業報告、決算報告ともに承認され、2007年度事業方針、収支予算案についても無事承認されました。また今年度の役員が選任され、今年度の総会は無事終了することができました。

総会后、中合サンダースに場所を移し開催された交流会には、18名の方が参加されました。各々の近況や活動についてなどが報告され、終始なごやかな雰囲気の中で交流が進められたようです。

（事務局 角田）



楽しく、苦勞のしがいのあるNPO活動にしたいもの

—新しい年度を迎えて—

理事長 清水 修二



誰に頼まれるでもなく、義理も利害関係もないのに、自ら苦勞を買ってでて社会貢献をするのがNPOです。基本的に「物好き」や「酔狂」の世界なわけですが、人間が一番元気に、苦勞を厭わずにやれるのが、実はそういう世界の仕事だと思います。

さんざん「会社貢献」をしてきた多くの方が、定年を前にして「社会貢献」に残りの人生を使いたいと思うようになっていくことは確かです。NPOの可能性というか市場というか、期待

されるところは大きくなっています。ただ、「いろいろ苦勞はあるが、まあ楽しくやれてる」ということでないと、物好きにも酔狂にもなりません。楽しくなければNPOじゃない。そして、NPOの楽しさとは何かといえ、それは「人間関係の豊かさ」にほかならないと私は考えています。ですから、「あの人は一緒に仕事をしたくないな」と他人に感じさせるような人間は、そもそもNPOには向いてない。

私の理事長づとめも2年目に入りました。本センターは発展途上の未熟な組織ですが、人材は結構豊富だと思います。公募にこたえて理事会に新たに加わっていただいた田口三郎氏はITシステムづくりが専門で、大いなる戦力です。本センターの顧問だった早川哲郎氏は市議員に当選されました。NPOに理解のある議員さんの登場を喜びたいと思います。また、ある会員からご協力の申し出があり、懸案だった県内NPOデータベース作成の作業も始まりました。

市役所も県も、「協働」を推進するためのいろんな取り組みをスタートさせています。中間支援NPOに対する行政の期待は高まっています。さらに、東北全体の中間支援NPOが連携して「東北ろうきん」の社会貢献プログラム事業にも取り組んでおり、企業との協働の分野でも新しい展開が始まりました。

ますます忙しくなるのは確実なんですけど、「どうせやるなら楽しくなくっちゃ」が私のNPO哲学です。皆さんも、一緒に楽しく苦勞しませんか。

福島市市民活動サポートセンターからのお知らせ

◆ふくサポホームページ開設◆

これまで、「ふくサポ」からの情報発信は隔月発行の「ふくサポ通信」が中心でした。そのため、どうしても最新情報が滞り勝ちでした。今後はホームページに、いわば賞味期限のある催事情報や最新の助成金情報などの支援情報を中心に掲示していきます。

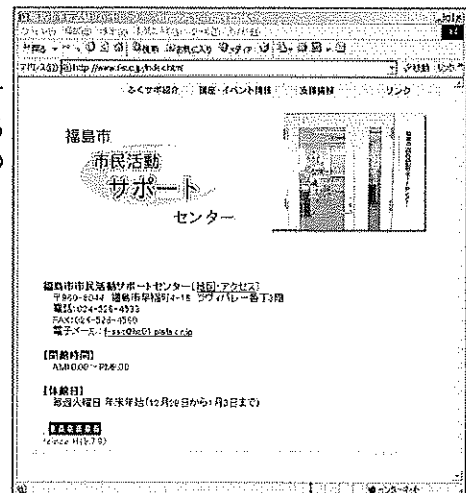
ぜひ、ご活用ください。

URL <http://www.f-ssc.jp/index.html>

◆ふくサポの夏季講座スケジュール◆

- 8月27日(月)「つよい組織を育てよう」
ウィズもとまち大会議室 18:30~20:30
- 9月10日(月)「思いをカタチにしよう」
ウィズもとまち大会議室 18:30~20:30

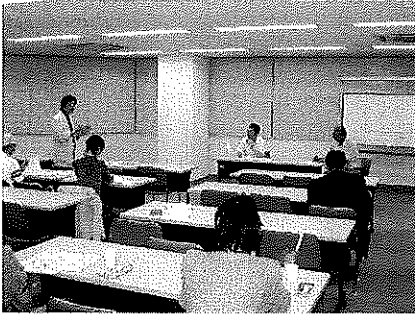
※詳細は <http://www.f-ssc.jp/index.html> または下記までお問い合わせください。
TEL 024-526-4533 / E-mail: f-ssc@bz01.plala.or.jp



第44回NPO研究会の報告（7月3日 ウィズもとまち）

「県内NPOの現状・課題と中間支援組織のあり方」

福島大学共生システム理工学類教授 星野 珉二



昨年の秋から冬にかけて、当センターでは自主事業として、県内のNPO法人にアンケート調査を行い、NPOの活動実態を把握するとともに、活動上の課題を明らかにしました。また、併せて、中間支援組織に対するニーズやNPOファンドへの期待度などについても調査しました。この調査では凡そ、県内NPO法人の三分の一から回答を得ています。

研究会で報告した主な調査結果は以下のようです。人材面においては、有給スタッフの確保はどうかできてきているものの、給与水準は低い水準に留まり、ボランティア・スタッフの確保は不十分といえます。

資金面においては、会費収入の目標達成度は一定の水準にありますが、委託費や寄付金は達成度が低く、全体として資金調達は難しい状況にあります。情報・広報面については、活動に必要な情報収集は比較的できていますが、自分たちの活動の広報はあまりできていないという結果になっています。中間支援組織については、組織の認知度は半数に留まり、約8割が組織を利用しないと回答しています。NPOファンドについては、「利用したい」と「利用しない」とで2極化しており、事業の規模が大きくなるほど「利用したい」の比率が高くなっています。

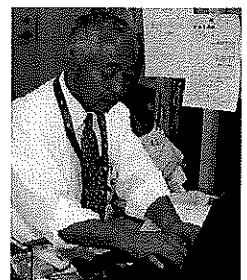
中間支援組織の認知度の低さと利用率の悪さは私どもにとって気になるところですが、中間支援組織への期待する項目についても尋ねています。期待の大きい項目として、NPOと行政・NPOと企業との協働に関わる支援、ネットワーキング支援、資金調達支援、市民へのNPO活動に関する働きかけなどが挙がっています。中間支援組織はこの辺の内容を肝に銘じて活動していく必要があります。（文責 星野 珉二）

言霊への旅〜私の信金道〜

第三回

ふくしま情報ステーション所長

武藤 進



「はい。山一つ越えようと上保原か、文知摺ですから、私、その文知摺のある岡山小学校の出身なんです…ヨ」

「そのあと、中学、高校終わって、信用金庫さ、はいっらったんだ、ない」

「はあ、そのあと、埼玉の大学に行って、そして…」

「大学さ、行ったのがい。ほんじゃ、すべ、えらくなつつおい」

「いやいや、ほだごとはねーでしょうけど」

話しかけるお婆さんの横で、その家のお爺さんらしき人と、やはり同年配の人が別な話を始めている。

「…ほーがい。ナツコも、やっぱりない。ほんじゃ、ことしは、ハルコも

ナツコも、へだすつと、アキコ、んね、フユコまで、そうすつと、はやぐ

農協さ行って、相談しねど、支払いもあつことだし、ない」

この家は女系家族なのか、それともこの辺りが女系部落なのか、女の子の名前が連発されている。

「旦那さんのどこは、女の子供さんが、たくさんいらんだ、ない」

「…？ん…？」

いままで、深刻そうな顔を寄せ合い談合していた三人の農家のオジサンたちが、一瞬、固まったように怪訝な顔をして、その後、爆笑となつた。

「わが、何ゆってんだい（大笑い）。クマンド顔してっから、ベテランだ

どばっかし、思っでたら、今の話聞くと、なんでも、ことし入ったばかり

の新入生だ、つつうでねーの」

「ほだで、ない。あんな、このえ（家）は、何で食ってつと、思っでんだ

ん」

「はあ、農家ですから、いや、農業ですから…畑の作物、野菜とか米、果

物…」

「あんな、ハルコ・ナツコ・アキコは、お蚕さま、なんだ、そい」

《続く》

「第1回東北地区NPO支援センター連絡会議」について

情報ステーション所長 武藤 進

平成19年6月1日(金)と6月2日(土)の両日、仙台市青葉区北目町の東北労働金庫で行われた「第1回東北地区NPO支援センター連絡会議」に出席してまいりましたので、下記のとおり、ご報告します。

東北ろうきん加賀谷常務の挨拶のあと、今般参会の労をとっていただいた北 尚登営業統括部福祉推進グループ長から、東北ろうきん社会貢献プログラム「パートナーシップ制度(※)」について説明があり、休憩をはさんで東北六県の支援センター自己紹介と個別NPOの問題点の討議に移り、次回第二回連絡会議日程を8月24日(金)と25日(土)の両日と定め、散会しました。

翌日は、IHOE(人と組織と地球のための国際研究所)「NPOマネジメント」編集発行人の川北秀人氏から「協働環境調査2005」について説明と報告があり、今年度調査については、東北六県支援センターがそれぞれ分担して取り組むことが採択されました。午後からは、オープン参加「信頼と支援を得るための情報開示セミナー」が前述IHOE川北氏、同芝原氏、そして日本財団荻上氏を講師に開催され、助成金申請時の注意点と支援センターが個別NPOに指導する方法等を申請書を使って具体的に学びました。

今回はじめて「中間支援NPO」の実際を垣間見て、そして熱心に話す実務家の現場体験に、新鮮な感動を覚えました。そして、せんだい・みやぎ加藤氏はじめ、東北管内NPO現場で活躍する数多くの実務家とヒューマンネットワークを結ぶことができ、たいへん稔り多い会議となりました。

※「パートナーシップ制度」とは、東北ろうきんCSRの一環で、団塊の世代をはじめとする退職者や休日等を活用し、ボランティア活動を希望する方々に東北ろうきんと各県中間支援NPOが協働し、活動参加者と個別NPOを結びつける制度です。

ふくしまNPOネットワークセンターからのお知らせ

福島学院大学駅前キャンパス4FのNPO実習室(当センター管理)を、NPO、市民活動団体向けに無料で貸し出しています。プロジェクターが必要な場合は当センターの方から貸し出します。(有料)10名程度の会議、講習会などに、ぜひご利用ください。

利用時間 平日10時~20時 土曜日10時~16時

問い合わせ先 TEL 024-528-1211

※駐車場はありませんのでご注意ください。

※実習室内での飲食はできません。



編集後記・事務局便り

かなり暑くなってきましたが、事務局は地下なのでクーラー要らずです。夏涼しく、冬暖かく・・・でも窓がないのが寂しいです。

さて、「のっぽの手」では誌面充実の為、理事、職員はもとより、会員様、各団体様よりの投稿をお待ち申し上げております。当センターへのご意見、日頃の活動に関する事、はたまた「よもやま話」などございましたらぜひ下記宛にお寄せいただければと思います。よろしくお願いいたします。

ふくしまNPOネットワークセンター事務局 <http://www.f-npo.jp/>

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビルB1

TEL 024-528-1211 FAX 024-528-1218

E-mail center@f-npo.jp

福島市市民活動サポートセンター <http://www.f-ssc.jp/index.html>

ふくしま情報ステーション <http://www.machi-fukushima.jp/>

